



すくすく健康部会

令和元年 10 月 23 日発行第 5 号



お米作り大作戦(稲刈り)



すくすく健康部会では、実体験を通して子どもたちが食と農業への関心を高めることができるよう、地域サポーターの協力を得て、お米作りを行っています。6月に、2年生と4年生が田植えを体験しました。その後、各学級がリレー方式で稲の観察日記をつけて、お昼の放送で発表しました。今年は、台風の影響も少なく、収穫を迎えることができました。サポーターの皆さんは、水の管理や草取り、施肥や消毒など、子どもたちができない作業を収穫まで続けてくださいました。

そして、10月15日に、3年生と5年生が稲刈りの体験をしました。3年生のほとんどの子どもたちが、稲刈りをするのは初めてでした。3年生は、「指を切らないように親指を上に向けて刈るといいよ。」「稲束の下の方を回しながら握り込んで刈ってごらん。」と、サポーターさんに教わったコツに気をつけながら、刈り取っていきました。5年生は、コンバインの作業も手伝いました。

11月21日(木)は、おにぎり給食の日です。収穫したお米を全校児童が持ち帰り、家庭でおにぎりにして持参します。さて、お米がどんなおにぎりに変身するのでしょうか、次号で報告します。

田起こしから収穫まで、多くのサポーターさんが関わってくださったことに心から感謝します。



稲かりの体験をしておもしろかったことは、かまを使って稲を割るときにザクザクバリバリという音がしてせんべいを食べているときのような音がしたことでした。稲はかたくかりにくかったです。かまを上手に使える、きれいになることができるということが分かりました。

家では、コンバインで稲を刈るけれど、素手でやるのはないので家でやってみました。

ぼくが、稲かりをして思ったことは、お米は大切だということです。稲を運ぶときに一本でも落ちてしまわないように言われていたのを聞いて、稲を本が大切なんだなと思いました。それに、社会でお米を作っている生産者の人が減っているのを知ったので、生産者の人がもっと増えてほしいと思いました。米を作るにはたくさんの苦勞をしているのが、分かったのだから、もっと作ってくれてくれる人たちへの感謝をわすれられないようにしたいと思います。

はくざんっ子学習

わくわく学習部会



6年生「はくざんっ子学習（総合的な学習の時間）」では、「夢を追求するために人と出会い、体験を通して自分の生き方を考える」の一環として、「プロから学ぶ」を行いました。

6年生の保護者、お菓子職人、胚培養士の皆さんがサポーターとなって、「働くことの意味」について語りました。子どもたちは、その仕事の魅力、協力することや責任をもつことの大切さを学ぶことができました。以下、子どもたちの感想を一部紹介します。



農家の白井さんはお話の中で「計画を立てて仕事をする」ということが大切だと言いました。給食で出てくる菜花のおひたしも白井さんが作った菜花だそうです。私は将来何になっても計画を立てて仕事をしたいです。

私は公務員は町の人のためにあたりまえのことをあたりまえにするということが分かりました。公務員のみさんが、安心して豊かに生活できる暮らしをつくってくれていることが分かりました。

胚培養士という仕事は重要な仕事だと思いました。卵子と精子が出合う手伝いは大変だと思うし、責任のある仕事だと思いました。

パティシエは作物によって役割がちがってびっくりしました。働いている人たちは、それぞれ大変な努力をしていると分かり、すごいなと思いました。

私は看護師さんは人の命をあとずかり、生死が常にそばにあるということが心に残りました。とても責任のある失敗が許されない仕事だと思いました。

私は自衛隊は、いろいろな仕事があり、みんなのために考え、行動していることを学びました。自分の行動に生かせることがたくさんあったので、行動に表したいです。